

調理人のこだわりや夢、
使命や喜び、果ては哲学。
決して終わる事のない
厨房への熱い思いにお応えしたい。
そこには、料理に賭ける思いと
製品に賭ける私共の思いがシンクロした、
誰も想像出来ない新しい未来が存在します。

コンセプトモデル
Concept Model
TX-01

未来創造
タニコーのチャレンジスピリットから
生まれた未来への形



HCI2013発表製品



オリジナルのアイスピンの水切付シンク



喫茶に特化した小型ガスコンロ



直線のみならず、微妙な曲線も可能にしたR加工技術



2013年9月25日発行
発行：タニコー株式会社 〒142-0041 東京都品川区戸越1-7-20 TEL03 (5498) 7111
編集：株式会社メディア・ミル



タニコーとお客さまを結ぶ最新情報通信
[カレントニュース]

tanico NEWS
CURRENT

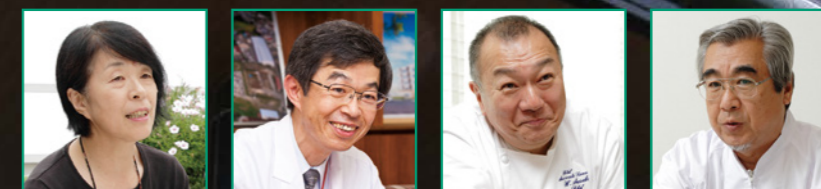


URURRENT NEWS

特集

東北被災地域
“食ビジネス”の今

復興へ!「地域と共に生きる」



タニコー株式会社福島小高工場
復興記念式典会場

- 東北復興!「こだわり厨房」お見せします!!
・はまなす海洋館 ・ホテルサンルート釜石
・医療法人落合会 東北病院 ・田中菓子舗
- Information
復興へ地域一丸!
【タニコー福島小高工場】復興記念式典開催
被災から2年余りー。ここから新しいタニコーがはじまる!
- タニコーのチャレンジスピリットから生まれた未来への形
“未来創造”Concept Model TX-01

東北被災地域“食ビジネス”の今

復興へ!

「地域と共に生きる」

東日本大震災から、2年あまりの時間が経過した。あの「国難」とも呼べる状況から、日本経済は今、着実に復活しつつある。

しかし、今も大きな爪痕を残す東北の被災地域では、復興事業が遅々として進まないという現実を抱えた地域も少なくない。

そんな中、甚大な被害を受けながらも、いち早く事業を再興し、同じ被災者として地域の人々と支え合い、郷土復興の担い手となっている人々がいる。

今号のカレントニュースは、岩手（釜石市・宮古市）、宮城（気仙沼市）の被災地域を訪ね、“食ビジネス”に携わる人々の熱き想いをレポートする。



日本経済の復活兆候と東北経済の動き

政権交代により円高是正で、輸出型企業の業績が上向いたことを受け、本格的な回復基調に入ったとも言われる日本経済。長らく落ち込んでいた消費の面でも、不動産市場が活況となったり、小売業界においても高額品が堅調に売上を伸ばすなど、デフレ脱却を目指すいわゆるアベノミクスの影響が、長年低迷していた消費にも見られる。

食ビジネスの分野で注目されているのは、いわゆる「プチ贅沢」だ。デフレ下の象徴であった低価格のハンバーガーや牛丼といったファストフードが苦戦する中、焼肉、回転ずし、ファミレスなどの売上げ（客単価）は堅調に推移している。もっともこうした良い流れが継続して行くか否かに関しては、今後、本格的にアベノミクスの成長戦略が効果を発揮できるかにかかっていることは言うまでもない。

さて、震災以降の東北経済全体に目を向けてみたい。

震災以降の個人消費は、大型小売店販売額が震災時の平成23年3月が前年比で-22.4（全店舗ベース）と大幅に低下したが、それ以降はいわゆる復興需要に支えられ、平成23年5月から14か月連続で前年比を上回り、その後も堅調に推移している。

国直轄の河川対策（堤防）や国道、港湾など、産業振興に直結する基幹公共インフラは、計画に対して進捗率95%を超えている。また、壊滅的な被害を受けた被災企業の中でも、事業を再開し、成果を上げ

■ Pick up Data

売上高前年同月比

全店 (新規店 を含む)	全体	ファースト フード	ファミリー レストラン	パブ レストラン 居酒屋	ディナー レストラン	喫茶	その他
12月	99.0%	97.1%	102.9%	94.9%	101.2%	100.1%	106.0%
13年1月	97.8%	94.7%	102.6%	95.6%	101.0%	99.4%	103.6%
2月	98.7%	96.4%	102.4%	96.3%	102.8%	97.6%	105.7%
3月	101.6%	100.1%	104.7%	97.7%	104.4%	101.0%	108.3%
4月	99.7%	99.7%	99.7%	97.5%	100.6%	100.5%	104.6%
5月	103.3%	104.1%	103.1%	99.9%	103.1%	102.0%	106.0%
6月	103.6%	103.5%	105.8%	97.1%	103.9%	100.6%	104.7%

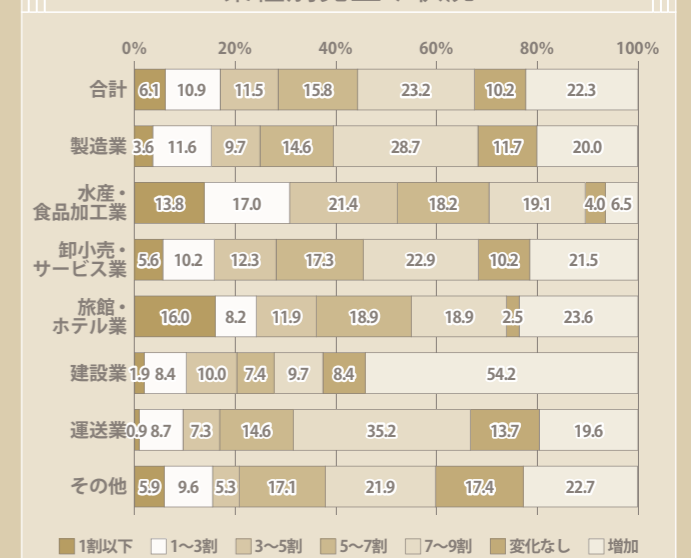
客単価前年同月比

全店 (新規店 を含む)	全体	ファースト フード	ファミリー レストラン	パブ レストラン 居酒屋	ディナー レストラン	喫茶	その他
12月	98.3%	96.3%	101.6%	99.7%	99.0%	101.7%	100.7%
13年1月	99.7%	97.5%	102.1%	99.1%	98.8%	101.5%	100.5%
2月	101.2%	100.0%	102.0%	99.7%	98.5%	101.6%	97.8%
3月	98.8%	96.7%	101.9%	98.6%	99.2%	101.8%	100.0%
4月	97.7%	95.9%	101.2%	98.9%	99.5%	101.4%	99.7%
5月	100.3%	100.1%	101.4%	99.3%	100.9%	101.5%	98.9%
6月	100.2%	99.7%	101.5%	98.6%	102.8%	101.7%	98.6%

(日本フードサービス協会調べ)

■ Pick up Data

業種別売上げ状況



(東北経済産業局調べ)

始める企業も出てきており、事業を再開できた企業のうち約3割は、売上げが震災前に戻っているというデータもある。

また、平成24年9月に、東北経済産業局が調べたグループ補助金交付先の売上げ状況（3ページ表参照）では、津波による壊滅的な被害を水産・食品加工業の中でも、6.5%の企業は震災前より売上げが増加し、復興需要を享受する建設業の場合は、なんと54.2%が売上げを増加させているという。

こうした状況を踏まえて、経済産業省は、「東北経済は震災による落ち込みから徐々に回復しており、全体で見れば、復興は着実に進展している」としている。

これからも、 気仙沼でウエディングを！

海にせり出るように設えられたウエディングチャペルのみを残し、根こそぎ波にさらわれてしまった



「はまなす海洋館」
女将 鈴木緑さん

「はまなす海洋館」は、宮城県気仙沼の大谷海岸の美しい海と、趣のある気仙沼線を望む、絶好のロケーションで人気の宿だった。

「本当に間一髪。祖母から教

わっていた小高い場所に避難した途端に津波に襲われました」

当時の緊迫した様子を教えてくれたのは、女将の鈴木緑さん。震災直後はとても再開は無理、と落胆したそうだが、避難所で「はまなす海洋館」で子供がウエディングをしたという被災者の方に出会い、多くの人の思い出が詰まった場所をこんなことでなくしてはならない、また、地域の人々のために、これからもこの施設は必要との思いで再建を決意。震災からわずか4ヶ月後には、恒例だった7月のプライダルフェアを地域の被災者とともに開催したのだという。

その後、瓦礫の山と化した海岸を、スタッフ総出で根気よく片づけ、レストラン（陽だまりレストラン カフェ・ド・マルシェ）と冠婚葬祭事業をいち早く再開。今夏には、美しい海岸線を眼下に望む、待望の宿泊等も完成となり、大谷海岸のランドマークが装いを新たに返ってくる。

被災から4ヶ月。 初盆のお供えのお菓子作りから 再開した菓子づくり

需要があるのにそれに答えることができない。

こうした悩みを抱えている被災事業者はとても多い。防災の町として世界にその名を知られる宮古市田老（岩手県）の老舗菓子店・田中菓子舗も、現在そうした悩みを抱えている。

「工場、店舗を全て震災によって失いましたが、地域のみなさんに支えてもらって、今年なんとか工場も

建て直すことができました。でも、その生産量は震災前に比べると、種類も量も遠く及びません。とにかく、申し訳ない気持ちでいっぱいですが、手作りの菓子ですから、やはり人が足りないことにはどうしても増産はできないんです」



「田中菓子舗」
三代目 田中和七社長

田中菓子舗三代目の田中和七社長は、震災以前に卸していた店の中には、未だに商品を卸せない店があることを非常に心苦しく思っていると言う。

もともと震災前から、過疎化が進む地域が多かった東北地方だが、家を失い、職を失い、また、新たな災害への恐怖から、被災地域住民の流出が止まらないのが実情だ。

田中和七社長は、震災からしばらくは地域消防団の分団長として、若い団員たちを率いて寝食を忘れて地域の人々のために尽くした郷土の英雄の一人。もちろん、その間は被災した工場、店、自宅（家族）のことは手付かずのままだったという。

「震災直後から約三ヶ月間、私たち消防団は、家族とも離れて、避難所の消防団の部屋で合宿生活をしていました。その時から、『また、田中さんのかりんとうが食べたいよ』ってみなさん言うてくれていたのですが、とても自分のことを省みる余裕はありませんでした。でも、多くの人が震災で亡くなって、お盆が迫ってきた時にお供えのお菓子を作らなければということ、小さな工房を借りて落雁を作りました。狭い仮設住宅の小さな仏壇にお供えできるように通常よりも小ぶりの落雁でした」(田中和七社長)

宮古市田老周辺の地域では、労働の合間の10時、15時に甘いお菓子を食べる習慣が古くからあり、その一つが大きな耳のような形をした、町の名物でもあったかりんとうだった。お盆をきっかけに営業を再開した田中菓子舗は、今年新たに新設した工場、名物のかりんとうを中心に、少しずつその種類、生産量を増やし、地域の人々を喜ばせている。



「田中菓子舗」のかりんとう

地域の人々に愛されるホテルの 復活へ

釜石市（岩手県）のホテルサンルート釜石も、津波による浸水が2階にまで及び、1階にあったフロントやレストランの厨房施設さらに地下のボイラーなどの設備機器も全壊するという甚大な被害を受けた。震災後2年あまりの月日がたった今の状況を、佐々木亘料理長はこう語る。

「おかげさまでホテルは毎日ほぼ満室。調理部門に関しても朝食の捕食率が90%を超えるなど、業績的には非常に好調です。ただ、今一番困っているのは、人手不足です。震災によって多くの人が釜石を出たまま帰ってこない。震災以前行っていたランチ営業も人がいないために再開できずにいます」

ホテルサンルート釜石は、現在、東京都心のビジネスホテル並みの90%以上という客室稼働率を達成し、釜石復興のシンボリックな存在となっている。

もちろん、高稼働率を支えているのは、復旧工事や復旧支援のために釜石を訪れる人たちの需要だ。震災直後、電気もガスも戻らないうちから、部屋を貸してほしいという復旧工事関連の要望があり、被災



「はまなす海洋館」



「はまなす海洋館」 陽だまりレストラン カフェ・ド・マルシェ





「ホテルサンルート釜石(岩手)」
佐々木亘料理長

直後は、その被害の大きさから廃業もやむなしの決断をしたというホテルサンルート釜石は再興を目指した。

また、地域で失われた多くの命をともらうための仕事をこなす場所がない、という悲壮な地域の被災者の声もそれを後押ししたという。

「多くのお客様に来ていただけることはとても嬉しいですし、感謝しています。これからは地域の皆さんが食事に来てくれたり、冠婚葬祭に利用してくれるような町の皆さんに愛される、頼りにされるホテルにしていきたい。そのためには、やはり出て行った人が戻ってこられるような、元気な釜石を取り戻さなければ、と思っています」

忙しい毎日に感謝しながらも、地域住民に愛される、理想のホテルの姿を追い求める佐々木料理長だが、地元の建設関係者は、「これからまだ10年は復興

関連の需要が続く」と見込んでいるという。その証拠に、釜石には、現在復興関連の需要を見込んだ、新たなホテル建設計画がいくつも進行中だという。

地元の素材・知識と、外部のプロフェッショナルなスキルの融合で新たな産業を起こす

「自分が生まれて育った町ですから、もちろん復興はしたいけれど、ずっと地域の中にとくとくと、なかなか新しい発想ができません」

こう語るのは、気仙沼市唐桑町にNPO(特定非営利活動法人)「ピースネイチャーラボ・森里海工房」の商品開発担当・宮崎由衣さん。

森里海工房は、自ら漁師としてホタテや牡蠣などの生産を行う傍ら、NPO「森は海の恋人」の副理事として自然保護活動に取り組んできた畠山信氏と、元国際NGO職員で支援活動で被災地入りしていた松田憲氏が立ち上げたプロジェクト。

震災前の状況に再生するだけでなく、生産者が加工、販売まで手がけるいわゆる6次産業化をすることで、地域が持続的・自発的に運営・発展していく、『人と自然の循環』をコンセプトとした新たな産業づくりを目指している。

森里海工房が試行錯誤の末に商品化したのは、地元でとれた牡蠣やホタテなどを、間伐材のチップで燻製しオイル漬けにした「燻製牡蠣のボキヤール」と、地元の農家が作る産品を主原料とした穀物パー「森のクッティー」。

いずれの商品も、その開発や販路開拓には、「WIRED CAFE」など数々の人気カフェを運営するカフェ・カンパニー(本社・東京渋谷)がパートナーとして参加している。

開発担当の宮崎さんは、「実は、クッティーを開発するまでには、私なりにいろいろとお菓子を作ってみました。でも、カフェ・カンパニーさんからは、なかなかOKが出ませんでした。担当者の方やカフェのシェフの方からいただくアドバイスは、日々移ろうお客様を直接感じている方ならではのハッとさせられるものばかり。既存の枠に囚われていて、自由な発想がなかなかできないでいる自分を痛感しました」と開発の苦労を語る。

森里海工房は、地元民、生産者ならではの素材・知識を生かしながらも、商品開発、PR、販路の開拓、資



「ピースネイチャーラボ・森里海工房」
商品開発担当 宮崎由衣さん



燻製牡蠣のボキヤール



森のクッティー



ピースネイチャーラボ
(森里海工房)
宮城県気仙沼市唐桑町
西舞根133-1

金調達などは、意固地に地元発にこだわることなく、優れた外部のプロフェッショナルのスキルを借りることでその目的を果たそうとしている。

件の「森のクッティー」は、バレンタインデーに合わせて、カフェ・カンパニー経営のカフェなど、首都圏14ヵ所で販売し、わずか10日間で1000個を売り上げた。東北復興のみならず、行政の音頭もあり、6次産業化が全国的に注目を浴びるも、なかなか結果の出せない地域が多い中、森里海工房の取り組みは、全国から注目を集めている。

地域のために、地域と共に――

今回の取材を通じて強く感じたのは、過酷な状況乗り越え、復興へ向けて力強く歩む人々には、地域を想う心がしっかりとあった。自らの事業の再興のみならず、地域のために、という強い思いがあるからこそ、強いリーダーシップを発揮でき、周囲の人々も巻き込んで、力強く復興へと歩みだすことができたのだろう。

地元密着、地産地消など、『地域』が、食ビジネスにとって欠かすことのできないキーワードとされて久しいが、それらに加え社会貢献というのも大きなキーワードになっているのだと感じさせられた。被災地のみなさんは、地域の再興、というさらに厳しい現実に対しても奮闘しているのだ。

2020年の夏期オリンピック・パラリンピックの東京開催が決まり、東日本大震災の被災地で聖火リレーが行われることが決定している。震災にかぎらず、今は、台風や竜巻などの自然災害の被害も多いが、そこから見事に復興、再興を果たした被災地域に聖火が繋がれていくことを願わずにはいられない。

“食ビジネス”の復活で東北の復興を!



めまぶ定食

「じぇじぇ」などの流行語も生み、社会現象となったNHK朝ドラの『あまちゃん』。そのロケ地が、岩手県の久慈というところだ。ドラマに頻りに登場する海岸などは、『あまちゃん』巡礼の観光客が大挙して訪れ、休日には車両規制が行われるという事態になっている。ドラマに登場した郷土食「めまぶ」が食べられる食堂も連日大盛況だ

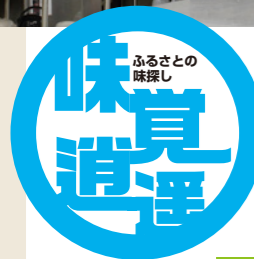
震災によって人口の流失が進んでしまった東北の各地域では、外から人を呼び込もうとする取り組みが始まっている。また、観光客や二地域居住者*といった交流人口を拡大させることで、外からお金を落としてもらっただけでなく、人口減少といった根本的な問題も緩和し、地域の活力を取り戻そうとする動きもある。

外の人間が、東北に足を運び、人々と交流する。ニュース映像だけではわからない「リアル」を多くの人が感じて、支えることで、東北の復興はより進んでいくことだろう。

※二地域居住者…都会に暮らす人が、週末や一年のうちの一週間を、農山漁村などで暮らす人々。都市で暮らす団塊の世代が、リタイア後にこうした生活様式を取り入れると考えられている。



「ホテルサンルート釜石(岩手)」



オール鏡面仕上げ厨房で、潮風に負けない！

▶ はまなす海洋館 (宮城県気仙沼市)



女将 鈴木緑さん



tanico's Person
仙台営業所 佐藤京子

式場として長年の間愛されてきた「はまなす海洋館」。その再興のきっかけは、避難所で女将が聞いた、地元の方の励ましの声でした。

「結婚式を挙げた思い出の場所をなくさないで」、「美味しいパンをまた食べた



マンボウとはまなすの花で有名な、大谷海岸（宮城県気仙沼市）に建つ、「はまなす海洋館」は、東日本大震災の津波によって施設のほとんどが大破するという壊滅的な被害を受けました。

大正期に創業し、風光明媚な宿、結婚

い」（施設内にはベーカリーも併設されていた）、「また家族でレストランに行きたい！」

こうした多くの方の激励に背中を押され、いち早く再開させたのが、壊滅的な被害を受けた施設内で、唯一奇跡的に難を逃れたチャペルを使うウエディングとレストランでした。

「当社が厨房施工のご用命を頂いたきっかけは、福島郡山営業所の古小高所長が震災後にかけて一本の電話でした。実は、所長は海洋館さんの熱烈なファンで、毎年、お盆の頃に家族で利用させていただいていたそうです。ニュースで気仙沼が被災したことを知り、女将さんに電話を入れたところ、事業の再開予定があることを知り、「是非、お力になりたい」と申し入れたのです。実は、この時まで、所長はタニコーで働いているとは明かしたことはなかったそうで、女将さんとはとても驚かれたそうです（笑）」

こう語るのは、タニコー仙台営業所の佐藤京子さん。

「実は、以前からタニコー製品には興味があったのですが、トップブランドで高いのでは？ というイメージがあって、お付き合いすることはありませんでした。でも、今回は、古小高さんとの不思議なご縁から、厨房一切をお願いすることになりました。設計から本当に親身になって考えていただいて、結果的に最高に満足できる厨房を作って下さいました。」（女将・鈴木緑さん）

眼下に大海原を望む、はまなす海洋館。その厨房は、潮風による塩害を徹底的に防ぐことに注力したと言います。

「とにかく、小さな取っ手の裏側まで、塩が入り込まないように、徹底的にオール鏡面仕上げにしました。厨房のみなさんからは鏡張りの厨房だね、と言われましたが…（笑）」（仙台営業所 佐藤さん）

この夏には、待望の宿泊棟も完成し、完全復活を遂げた「はまなす海洋館」。宿泊棟に新設された厨房もタニコーが受注し、高い評価をいただいています。

はまなす 海洋館
(陽だまりレストラン カフェ・ド・マルシェ)

宮城県気仙沼市本吉町九多丸1
0226-44-2517
11:30 ~ 14:00
14:00 ~ 17:00
<http://www.kaiyoukan.com/>

医療法人落合会 東北病院

福島県本宮市青田字花掛20
0243-33-2588 (代)

震災によって、入院施設棟の全壊という多大な被害を受けた、落合会東北病院（福島県本宮市）。

東北病院は、病棟が全壊するという緊迫した事態を迎えながらも、職員の適切な判断、避難誘導によって、奇跡的に死者はおろか一人のけが人も出さずは済みました。

「まずは、患者さんにケガがなくてホッとしました。でも、病院というのは、一日も休むことはできません。特に、重要なのが食事です」

落合紳一郎院長（兼理事長）は、仮設病棟の建設などに並行して、管理栄養士の皆さんとともに、患者さんにできる限り通常どおりの食事ができるように奔走します。

「東北病院が気になり震災直後に駆け付けたのですが、厨房は入院棟とは別棟にあり、電気やガスといったエネルギーにも十分なバックアップがあり、少しのメンテナンスでほぼ支障なく食事を提供する様子を見て、その危機管理の高さに驚かされました。その後、新入院棟建設の際、厨房のご用命を頂きました。ご要望は、「5年後、10年後も最先端でいられる衛生管理」ができる厨房。非常に難しい仕事ではありましたが、当社のノウハウを生かしてご満足いただける厨房ができたと自負しています」

担当者のタニコー郡山営業所・古小高敏直所長は、震災直後を振り返ると共に、今まで、セントラルキッチンや給食施設など、衛生管理レベルの高い厨房の施工で培ったノウハウがあったからこそ、ご要望に叶った衛生管理が徹底された厨房をご提案できたと胸をはります。

しかし、その一方で、厨房で働く職員の労働環境を考慮して、自ら「涼厨」*（厨房機器からの輻射熱を抑えつつ、燃焼排気が厨房に拡散することを防いだ働く人に優しい製品）をオーダーされた落合院長、そして、最先端の食品技術である「凍結含浸法」（食材の形を損なうことなく軟化させる特許技術）専用の調理室の設置を提案した管理栄養士の藤間比佐子さんの、勉強と努力を惜しまない姿勢に深い感銘を受けたと言います。

「今回タニコーさんに全面的に厨房を



5年後、10年後にも誇れる徹底した衛生管理厨房

▶ 医療法人落合会 東北病院 (福島県本宮市)



落合紳一郎院長
(兼理事長)



管理栄養士 藤間比佐子さん



tanico's Person
郡山営業所 古小高敏直所長

お願いしたのは、パートナーとして信頼ができたからです。古小高所長とは、時に激しい意見交換をしましたが（笑）、本音でそういうことができるのがタニコーさんのいいところ。だからこそ、最新鋭のこんなに素晴らしい厨房をつくることのできたのだと感謝しています」（管理栄養士・藤間比佐子さん）

東北病院は、日頃から院長はじめ職員

の皆さんが一丸となって、地域に信頼される病院であることを目指しているという。入院棟の全壊にも、一人のけが人も出さなかったことは奇跡とよばれていますが、常に地域のために、患者さんのために、を追求していた病院だからこそ起きた奇跡なのかもしれません。

*「涼厨」は大阪瓦斯株式会社の登録商標です。



「地域のためのホテル」であり続けるための新厨房

▶ ホテルサンルート釜石 (岩手県釜石市)

tanico's Person
水沢営業所 佐々木京一 所長



佐々木巨 料理長

かつては「鉄の町」として栄えた岩手県釜石市。最盛期には人口9万人以上を数えましたが、近年は高炉の休止によって人口が減少し、さらに、東日本大震災によって大きな被害を出した後は、さらに過疎化が進んでいます。

ホテルサンルート釜石の佐々木巨料理長は、「鉄鋼がよかった時は、町はずごい賑わいでしたね。でもこしばらしくは、

町にも元気がなくなっていました」と回想します。

そんな中、追い打ちを掛けるように襲いかかったのが、東日本大震災による津波でした。

ホテルサンルート釜石は、壊滅的な被

ホテルサンルート釜石

〒岩手県釜石市大町2-3-3
☎0193-24-3311
<http://hsrkam.lix.jp/>

害を受けた沿岸部にあり、鉄筋の建物は2階部分まで浸水、一階にあったロビー、厨房、地下のボイラー設備などはことごとく破壊され、一瞬にしてホテル機能を失ったと言います。

佐々木巨料理長が、「被災してまず感じたのは、こんなにホテルが海に近かったのか、ってこと」というように、かつてはホテルから海までに多くの建物があったものが、津波によって流されてしまったために、海が急に近くなってしまったかと思えたのでしょう。それほど、釜石の被害は甚大なものだったのです。

一時は廃業も視野に入れていたというホテルサンルート釜石でしたが、被災直後から復興支援関係の宿泊需要が高まったことを受け、再建を決断。以降、ホテルの稼働率は90%以上をキープするなど、好調を持っています。

施工を担当したタニコー水沢営業所の佐々木京一 所長は、新しい厨房の特徴をこう語ります。

「再建にあたっては、単に震災前と同じ厨房に復元するのではなく、限られたスペースでより高効率な作業動線を考慮したレイアウトにしました。津波の教訓から、ボイラーなどの施設を3Fへ、今まで手狭であった冷蔵冷凍庫を1.5坪の地下スペースに移動。それにより広がった厨房は、衛生区画を明確に分けたゾーニングにしました」

佐々木巨料理長が要望したのは、こうした食品の安心安全に加えて、地域のホテルとして、住民の冠婚葬祭にきちんと対応できる厨房でした。

「今は、復興関連のお客様が多いですが、やはりホテルは地域のみなさんのものだと思えます。そのためには、レストラン事業に加えて、ウエディングや宴会、仏事など、大量調理にもスムーズに対応できる動きやすい厨房が必要でした」(佐々木巨料理長)

レストランと宴会向けの大量調理が同時進行できるよう、きちんと作業場所の区分けがされていることも、ホテルサンルート釜石の新厨房の大きな特徴。それには、佐々木料理長のこうしたこだわりがありました。

岩手県宮古市田老は、過去の津波の教訓から、海岸線に「万里の長城」にも例えられる巨大防潮堤(全長25キロ、幅25メートル、高さ10メートル)を建設するなど、世界的にも知られた防災の町。その巨大防潮堤を持ってしても、東日本大震災の津波は止めることができず、大きな被害を出しました。

田老名物の「かりんとう」の製造販売で、長年地元の人々に愛されてきた老舗菓子店・田中菓子舗(創業大正12年)も、津波によって工場、自宅、店の全てを流されてしまいました。

田中菓子舗三代目の田中和七社長は、宮古市田老の第28分団の団長とし、震災直後から消防団活動に従事し、町のために動きつづけてきました。

「避難所に詰めての消防活動が一区切りついたころ、仮設店舗の一角に小さな工房を借りて、お盆のお供えの落雁など、少しずつ菓子作りを再開しました。幸いにも非常に多くのお客様から、『また、かりんとうを作って』『田中のお菓子が食べたい』と言っていて、なんとか早く本格的に工場、店の再建をしなければ…と考えていました。そんなある日、用事があって盛岡に出かけた時、偶然に『厨房機器のタニコー』という看板を見つけて『とにかく何もなくなってしまったけど、また菓子を作りたいんです』と、飛び込んだんです(笑)。菓子作りは非常に繊細なもので、かりんとうを揚げるフライヤーひとつとっても、勝手が違うと昔の味は出せません。タニコーさんには、そうした職人の細かい感覚についてもじっくりと聞いていただき、以前の感覚に馴染むように何度も機器を調整し、工場全体のレイアウトや運用に関しても適切なアドバイスをしてくれました。」

田中社長は、タニコーに工場の再建をオーダーした経緯、新工場再建についてこう語ります。

「田中社長が最初に営業所にいらした時は、正直言ってこんなに大きな工場を



ゼロから再建した「夢の工場」

▶ 田中菓子舗 (岩手県宮古市田老)

tanico's Person
盛岡営業所 小林和也 課長代理



三代目 田中和七社長

とのお言葉をいただき、非常に嬉しく思っています」(タニコー盛岡営業所・小林和也 課長代理)

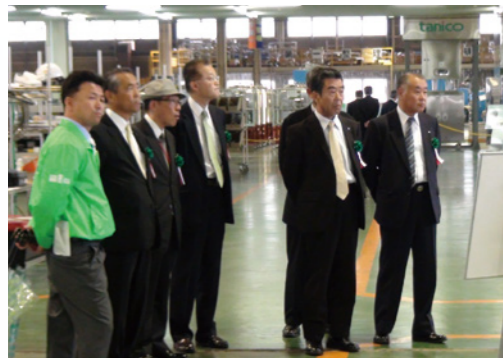
田老名物のかりんとうは、一般的な棒状のものではなく、生地を薄くスライスして揚げた、大きな耳のような形が特徴。人手不足などから、生産量はまだまだ震災前にとどいていません…。また、店舗も仮設店舗内での営業を続けており、一日も早い震災からの完全復活を地域のみなさんが望んでいます。

作ろうと考えているとは思いませんでした。でも、全て失ったにも関わらず、何とか事業を再建したいという情熱はすごく伝わってきました。新工場は安心安全を第一に考え、HACCP*に対応した衛生面を考慮したものとしました。菓子作りは、非常に繊細な技術と調整が必要でしたが、社長から「夢の工場ができたよ」

*HACCPとは？ 食品衛生管理システムの一つ。Hazard Analysis and Critical Control Pointの頭文字をとったもので危害分析重要管理点と訳される。

田中菓子舗
〒岩手県宮古市田老字八幡水神 37-1
☎0193-87-2020
☎0193-87-3970
営業 9:15 ~ 17:00





被災から2年余り。 ここから新しいタニコーが はじまる！

「タニコー福島小高工場」復興記念式典開催
復興へ地域一丸！



「タニコー福島小高工場」復興記念式典 主なプログラム



乾杯のご挨拶
福島県南相馬市長
桜井 勝延様



3・11復興への歩み
タニコー株式会社
中野 光太郎 取締役



相馬流れ山踊り
地元民謡同好会
様



式典開催の挨拶
タニコー株式会社
谷口 秀一 社長



パイカット(左より)
三井住友銀行様
きらく様・ラックランド様



式典閉会の挨拶
タニコー株式会社
谷口 一郎 会長

東日本大震災によって多大な被害を受けた福島県。特に、津波に加え、福島第一原発の事故は、さらにその被害を深刻化させました。福島県にあるタニコーの3工場も、震災直後に全て操業停止状態に陥りました。特に、南相馬市にある小高工場は、震災被害のみならず、原発から20キロ圏内の警戒区域（現在は解消）にあったことから、再興も危ぶまれていましたが、地域の復興への熱き想い、そして、タニコー社員一丸の努力によって、2013年5月29日、晴れて復興記念式典を開催するに至りました。

式典では、桜井南相馬市長をはじめ、福島・東北の地元企業、そして、全国から多くのタニコーユーザー様にも足をお運びいただき、盛大に行われました。



谷口社長のご英断に深い感謝。 タニコーは南相馬復興の旗印

(式典スピーチより)

南相馬市市長 桜井 勝延様

福島小高工場の復興記念式典にお招きを賜りまして、心から感謝申し上げます。

南相馬市は、福島第一原発の爆発によって多大な被害を受け、6万人以上の住民が一時的にこの地を離れざるをえないという状況に陥りました。そんな中であって、タニコー様には、避難所への炊き出しをはじめ、早々に鹿島工場、原町工場の再開をご決断いただくなど、地域に根ざした企業として、地域復興のためにご尽力いただいております。

また、被害が深刻であった小高工場に関しても、震災直後より必ず再建する、従業員を解雇することはしないと、谷口

社長が明言されたことは、まさにご英断として深く感謝いたしております。

南相馬市の復興には、まだまだ長い道のりがあります、しかし、確かなことは、タニコー様がその先駆的な役割を果たしていることでもあります。今回の工場再建も、単なる再建にとどまらず、新たな分野に進出するなど非常に意欲的です。南相馬市は、復興の旗印としてのタニコー様の今後のご発展を全面的に応援して参ります。

あらためまして、震災後、ご英断を持ってここまで会社を指揮されてきた谷口社長のリーダーシップに感服申し上げますと共に、社長のもとで、タニコー様が益々の発展を遂げられますようご祈念申し上げて、ご挨拶とさせていただきますと存じます。

(式典スピーチより)

被災を経験して、より力強く。

タニコー株式会社 谷口 秀一社長

東日本大震災によって、福島の4工場全てが操業停止となり、多くのお客様に、多大なご迷惑とご心配をおかけいたしました。

メインの工場の一つであった小高の被害は深刻で、一時期は警戒区域となり、再興が危ぶまれる事態にもなりましたが、多くの方々のご支援をいただき、本日、こうして皆さまをお迎えし、タニコー福島小高工場復興記念式典と行うことが出来た事を、深く感謝しております。

震災後、全社一丸となり、二期連続大幅な増収増益を達成することができました。

しかし、一方で震災はタニコーの弱点を気づかせ、考えさせる出来事でもありました。

小高工場の操業が停止しても、他の工場へ生産移管をしてカバーすることは、私の机上では充分可能はずでした。しかし、現実はそのはずが、工場ごとに技術が固定化し、生産が偏り、そして何よりも縦割りの硬直した組織があったことにより、それを成し遂げるのは非常に困難でした。しかし、「タニコーの未来のために今、ここで直さなければ」と思い、それから1年、3.11前よりも、もっと強いタニコーを目指し、組織改革を行って参りました。

例えば、製造部門では工場間の技術の流動化、人的な交流をすすめる情報の共有化をして、さらに製造品目ごとに異なる複数の工場と並行生産をすることで、生産の連携を図りました。そして、物流部門では、これらの体制をコストを上げずにするために、この小高工場にFMSセンター、CKセクションなどを設置し、お客様にご迷惑をおかけしない体制を作り上げたのです。

より多くのお客様の多様なニーズに応え、高品質の製品を早く提供して、当社の事業コンセプトである、「お客様の成功に貢献する会社」を実現させたいと思っています。

ここ、小高工場で事業を行うことが、社会貢献、東北復興に役立つものと信じて、新しいタニコーをスタートさせます。

どうか皆さまにはこれからもご支援賜りたく何卒宜しく願いいたします。本日は誠にありがとうございます。ごさいます。



小高復興記念式典の様子は動画でタニコーHPに掲載しています。URL : <http://www.tanico.co.jp> > 展示会情報 > 小高復興式典

小高復興記念式典で、ご協力いただいた企業様



● 福島4工場操業停止を乗り越え

震災前よりもっと強いタニコー

あの3.11からの福島小高工場復興ヒストリー

(コメンテーター / タニコー株式会社 中野 光太郎取締役)

発生

東日本大震災発生



2011年3月11日午後2時46分三陸沖を震源とする東日本大震災発生（マグニチュード9.0）発生。地震発生当時、当社は年度末の繁忙期にあたり、各工場ではフル生産を行っていました。

激しい揺れから程なくして、南相馬の沿岸部にも想像を絶する津波が襲いかかり、全てを持って行ってしまいました。小高工場の被害も甚大で、ガラスというガラスは破損し、外壁、石壁もはがれ、大きな亀裂が入り、商品部品棚もすべて倒壊するという状況でした。

2011.3

原町工場から炊き出し救援



小高工場は甚大な被害を受けてしまいましたが、程なくして、残された原町工場から、業務用の炊飯器などを持ち出し、体育館、公民館などに避難されていた被災者のみなさんに炊き出しを実施しました。

谷口社長の現地入りで、社員の士気が高まる



こうした厳しい状況のなかで、早々に谷口社長が現地に入り、「すべての社員の雇用を守る。だから、みんなでこの難局を乗り越えよう！」という力強いメッセージを発したことで、復興へ向けてさらに社員が一丸となりました。

全国にある工場のなかで、社員とその家族の受け入れが可能だった、福井県大野市のタニコーテックや、北海道岩見沢市の北海道工場に一時的な移住が始まりました。被災した工場では機械設備の修理点検などが急ピッチで進みました。

2011.4

東日本大震災応援プロジェクト



同じ被災者として、地元復興の力になりたい。との思いで、震災に見舞われたお客様の救済、及び復旧援助、余震対策を目的に「東日本大震災応援プロジェクト」を立ちあげました。

仙台、盛岡、水沢、水戸の4営業所と工場が協力し、一般飲食、官公庁、病院・福祉施設を対象とし、厨房の出張診断、耐震固定、簡易メンテナンス、ガス交換を無料で実施。

このプロジェクトは他方面で高い評価をいただき、約3ヵ月で2000件以上もの訪問を行いました。

2011.4・5

小高を除く県内の工場が次々に活動再開！



機械メーカーの献身的な協力により、ついに、2011年4月に鹿島工場、5月に原町工場・いわき工場が相次いで操業を再開することができました。

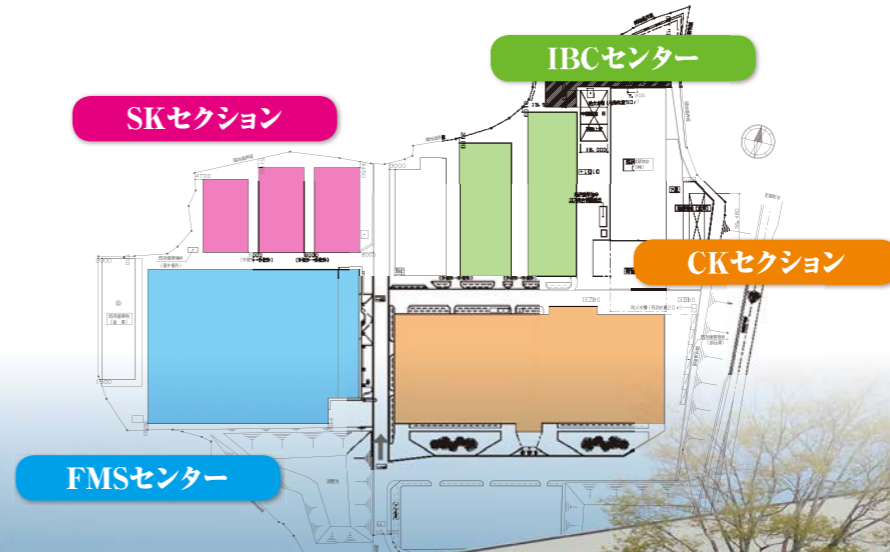
一方小高工場は警戒区域に指定され、4月16日より立ち入りができなくなり、工場の再開は全く見通しがかからないまま、他の工場をフル稼働し、なんとかやってきた1年でした。しかし、その間も警戒区域が解除されたときすぐに操業できる体制を整えるため、2012年2月には、協力会社のご尽力により、電気と水が使えるようになりました。操業再開への道筋がはっきり見えてきた瞬間でした。

再開

新しいタニコーへ！ 新小高工場完成



2013年5月29日、晴れて復興記念式典を開催するに至った小高工場は、最新の工作機械の導入により、より精度の高い部品加工を実現しました。例えば、FMSラインの導入により夜間運転も可能になり、より高い生産性を確保したほか、自動で折曲げが可能なロボットベンダー、ロボット溶接機などの最新鋭の設備を導入しています。さらに、太陽光パネルの設置によって、再生可能エネルギーを取り入れ、環境面にも配慮。幾多の苦難を地域の皆さまとともに、そして、全社一丸となって完成させた新小高工場は、復興を目指す地域の象徴であり、より力強く変革を遂げていく、新しいタニコーそのものだと感じています。



操業準備

ついに封鎖解除！ 念願の新小高工場操業



2012年4月16日に警戒区域の指定が解除実施され、工場の操業再開が可能になりました。これを受けて、一時移住していた社員たちが次々に南相馬に帰還し、本格的な工場再操業へと動き出しました。

小高地区では、長期に渡る警戒区域指定、地域住民の流出を受けて、やむなく撤退する事業者も多かったことから、「タニコーは本当に再開できるの？」という、ご心配もたくさんいただきました。しかし、何となくこの小高工場を復興させるのだ、という全従業員の強い気持ちに変わりはありませんでした。また、当社のこうした取り組みを受けて、タニコーがやるならウチもがんばってみようという地元の企業が多くあったことは、非常に嬉しく、逆に勇気づけられました。その後、7月にグループ補助事業の活用、9月には企業立地工業補助事業が採択され、復興へ向けて大きな弾みとなりました。